佐賀大学地域学歴史文化研究センター
自己点検・評価報告書
（平成 27 年度）

平成 28 年 10 月

1. 地域学歴史文化研究センターの目的・目標

(1) 目的・目標

21 世紀社会には、新たな学問体系が求められている。佐賀は 19 世紀後半、近代西欧文明・学問体系を受容した。それがどのような歴史文化を基盤としていたのか、また定着し展開したのかは、現在問われるべき重要な課題である。

佐賀大学が国立大学法人化を迎えるにあたり設定した理念・中期目標・中期計画のなかに、「社会が要請する研究分野を担当する文理融合型の研究センター設置を目指す」、「地域住民・市民と大学との地域連携研究を推進し、新たに『地域学』を創出する」とある。

本センターはこれを実現するために、平成 18 年 4 月に設立された。従って、本センターの目標は、以下の通りである。

1) 本学における文系基礎学の基盤整備を図り、充実・発展させること
2) 地域(佐賀)の歴史文化の固有性と普遍性を探究すること
3) 新たな学問体系としての地域学を創造すること
4) 本学の学問大系に新たな方向性(価値観・世界認識)を提示すること

この目標実現のため、以下の具体的な研究活動・事業を展開している。

(2) 基本的研究活動・事業

1) 地域(佐賀)の歴史文化資料の調査・収集と研究
2) プロジェクト(研究)の設定・企画・運営
3) 諸データベースの作成
4) 「研究紀要」「史料集」「図録」の刊行(企画・編纂)を行い、広く学会等へ調査・研究成果を公表していくこと
5) 講演(会)・講座・シンポジウムの開催(企画・設定)
6) 地域文化交流協定等による博物館等の特別展示の企画立案、共催事業の展開等により、本学(学生・教職員)及び地域社会へ研究成果を提供すること
7) ウェブサイトによるタイムリーかつ簡便な地域歴史情報を広く提供すること

2. 地域学歴史文化研究センターの概要

(1)設立経緯

佐賀大学では、平成 16 年(2004)より学長経費による文系基礎学研究プロジェクトを開始した。附属図書館所蔵小城鍋島文庫を調査・公開することと、平成 15 年 2 月に結ばれた佐賀大学と小城町(現小城市)との地域文化交流協定事業の支援として、平成 16 年 8 月に特別展「小城鍋島藩と島原の乱」を開催し、同図録を刊行した。平成 17 年には、特別展「小城鍋島家の近代」を開催し、同図録を刊行した。これらの歴史文化研究と地域貢献事業の発展上に、さらには前述の通り佐賀大学中期計画・目標を達成するために、地域学歴史文化研究センターが平成 18 年 4 月に設立された。

(2)センターの概要

1)本センターは、地域(佐賀)の歴史文化の固有性と本学文系基礎学研究の現状を踏まえて、考古学、国文・文献学、洋学・思想史、地域史・史料学の4研究部門に専任・併任教員を配置し、地域学創出に向けた研究をすすめている。

2)各研究部門長は、部門のプロジェクトを運営し研究を推進する。

3)研究拠点として、平成 18 年 10 月佐賀大学本庄キャンパスに竣工した菊楠シュライバー館を使用し、市民・学生向けの閲覧室・展示室を常備している。

4)教職員構成は下の通り(平成 28 年 3 月時点)

センター長	1 名
副センター長	1 名
専任准教授(副センター長兼任)	1 名
専任講師	1 名
併任教授	2 名
併任准教授	2 名
特命教授	13 名
教務補佐員	1 名
事務補佐員	1 名
非常勤研究員	1 名

5)部門別構成は以下の通り(平成 28 年 3 月時点)

考古学研究部門	重藤　輝行併任教授(部門長、文化教育学部)
国文・文献学研究部門	中尾　友香梨併任准教授(部門長、文化教育学部)
地域史・史料学研究部門	伊藤　昭弘専任准教授(部門長)
	宮武　正登併任教授(全学教育機構)
	山本　長次併任教授(経済学部)

鬼嶋　　淳併任准教授（文化教育学部）

洋学・思想史研究部門　　三ツ松　誠専任講師（部門長）

6）歴代教職員（肩書きは就任時）

○センター長

宮島　敬一（経済学部教授）　平成 18 年 4 月～19 年 2 月

古賀　和文（副学長・理事）　平成 19 年 3 月～7 月（センター長事務取扱）

高﨑　洋三（医学部教授）　平成 19 年 8 月～22 年 3 月

半田　駿　（農学部教授）　平成 22 年 4 月～24 年 3 月

青木　歳幸（センター専任教授）　平成 24 年 4 月～26 年 3 月

宮島　敦子（文化教育学部教授）　平成 26 年 4 月～27 年 3 月

宮武　正登（全学教育機構教授）　平成 27 年 4 月～

○副センター長

飯塚　一幸（文化教育学部助教授）　平成 18 年 4 月～19 年 3 月

青木　歳幸（センター専任教授）　平成 19 年 4 月～24 年 3 月

伊藤　昭弘（センター専任准教授）　平成 24 年 4 月～

宮島　敦子（文化教育学部教授）　平成 25 年 4 月～26 年 3 月

○部門長

考古学研究部門

佐田　茂　（文化教育学部教授）　平成 18 年 4 月～20 年 3 月

重藤　輝行（文化教育学部講師）　平成 20 年 4 月～

国文・文献学研究部門

井上　敏幸（文化教育学部教授）　平成 18 年 4 月～20 年 3 月

生馬　寛信（文化教育学部教授）　平成 20 年 4 月～22 年 3 月

白石　良夫（文化教育学部教授）　平成 22 年 4 月～26 年 3 月

中尾　友香梨（文化教育学部准教授）　平成 26 年 4 月～

洋学・思想史研究部門

青木　歳幸　平成 18 年 4 月～26 年 3 月

三ツ松　誠　平成 26 年 6 月～

地域史・史料学研究部門

飯塚　一幸　平成 18 年 4 月～19 年 3 月

伊藤　昭弘　平成 19 年 4 月～

○専任教員

教授　青木　歳幸　平成 18 年 4 月～26 年 3 月

講師　伊藤　昭弘　平成 18 年 4 月～19 年 11 月

准教授　伊藤　昭弘　平成 19 年 12 月～

講師　三ツ松　誠　平成 26 年 6 月～

○併任教員

佐田　茂　平成 18 年 4 月～20 年 3 月
井上　敏幸　平成 18 年 4 月～20 年 3 月
飯塚　一幸　平成 18 年 4 月～19 年 3 月
石川　亮太（経済学部准教授）　平成 18 年 7 月～24 年 3 月
鬼嶋　淳（文化教育学部講師）　平成 19 年 10 月～
重藤　輝行　平成 20 年 4 月～
生馬　寛信　平成 20 年 4 月～22 年 3 月
白石　良夫　平成 21 年 4 月～26 年 3 月
山本　長次（経済学部教授）　平成 24 年 4 月～
宮島　敦子　平成 25 年 4 月～26 年 3 月
宮武　正登　平成 26 年 4 月～27 年 3 月
中尾　友香梨　平成 26 年 4 月～

○特命教員

長野　暹（佐賀大学名誉教授）　平成 21 年 6 月～26 年 5 月
生馬　寛信（佐賀大学名誉教授）　平成 22 年 4 月～27 年 3 月
ミヒェル・ヴォルフガング（九州大学名誉教授）　平成 22 年 4 月～27 年 3 月
平井　昭司（元東京都市大学教授）　平成 22 年 4 月～27 年 3 月
井上　敏幸（佐賀大学名誉教授）　平成 23 年 4 月～
鈴木　一義（国立科学博物館理工学研究部主任研究官）平成 23 年 4 月～
松田　清　（京都外国語大学教授）　平成 23 年 4 月～
村上　隆　（京都美術工芸大学教授）　平成 23 年 4 月～
高崎　洋三（佐賀大学名誉教授）　平成 23 年 4 月～
中村　政俊（佐賀大学名誉教授）　平成 23 年 4 月～
半田　　駿（佐賀大学名誉教授）　平成 24 年 4 月～
宮島　敬一（佐賀大学名誉教授）　平成 25 年 4 月～
青木　歳幸（元佐賀大学地域学歴史文化研究センター教授）平成 26 年 4 月～
白石　良夫（元佐賀大学文化教育学部教授）　平成 26 年 4 月～
宮島　敦子（佐賀大学名誉教授）　平成 27 年 4 月～

○非常勤博士研究員

野口　朋隆　平成 23 年 5 月～25 年 3 月
伊香賀　隆　平成 25 年 4 月～26 年 3 月

○非常勤研究員

伊香賀　隆　平成 26 年 10 月～

○教務補佐員

伊藤　彰子	平成 18 年 4 月～19 年 11 月
亀井　森	平成 19 年 11 月～22 年 3 月
大塚　俊司	平成 20 年 5 月～

○事務補佐員

古賀　亜紀	平成 21 年 4 月～24 年 7 月
上祐　佐智子	平成 24 年 8 月～

3．26 年度の活動に関する自己評価

(1)教育

ア)教養教育を所管する教養教育運営機構／全学教育機構との連携をすすめた。具体的には専任教員による教養教育授業担当、インターフェース科目「佐賀の歴史と文化」企画・担当などである。

イ)上記のほか、大学コンソーシアム授業開講や、e―ラーニング、文化教育学部での地域学関連専門科目開講など、学内他部局と連携し教育活動を実施した。

ウ)センター内に閲覧室を設け、歴史・文化・郷土史関係の書籍・資料を約 1900 点配置し、学生・市民の利用に供したほか、研究成果を展示室にて公開した。

エ)公開講座「佐賀学のススメ」を開講し、市民向けの地域学教育を図った。

オ)佐賀県立図書館との共催で市民向けの古文書講座を 10 回開催した。

カ)佐賀市との共催公開講座「幕末の歴史から見える「佐賀の底力」5」を開催した。

〈自己評価〉

本センターは研究を専門としているが、設立以来、研究成果の教育活動への活用を意図してきた。具体的には大学教養教育における地域学教育を構想し、上記の通り教養教育機構／全学教育機構との連携を図った。

社会教育の面では、市民参加型の古文書講座や公開講座を自治体と共催などにより開催し、地域学の有効性や史料保存の重要性について、市民の理解が深まるよう努めた。

(2)研究

ア)佐賀大学附属図書館所蔵「小城鍋島文庫」の歴史関連資料から、小城・須賀神社の祭礼である祇園祭に関する研究をすすめ、成果を小城市との共催展「小城祇園祭―千葉・鍋島から現代へ―」を開催して市民に還元したほか、研究図録を刊行した。

イ)地域学歴史文化研究センターで収集した史料の研究・公開推進のため、『佐賀藩第三代藩主鍋島綱茂の文芸－『観頤荘記』を読む』『肥前鹿島円福山普明禅寺誌』を刊行した。

ウ)地域学研究の基礎的情報を蓄積するため、野中家・山本家・深江家の史料調査を実施した。

エ)研究プロジェクト「地域間交流分析に基づく佐賀地域の歴史文化研究―地域学の発展に向けて―」(略称地域学交流プロジェクト)は 2 年目に入り(3 ヶ年)、着実に共同研究をすすめた。

オ)第 5 回在来知歴史学国際シンポジウムを後援した。

カ)所属教職員のほか、佐賀地域歴史文化に関する学外研究者の成果をまとめた研究紀要第 10 号を刊行した。

キ）佐賀学ブックレット第 4 冊『佐賀平野の環境水』を刊行した。

ク）伊藤昭弘准教授は基盤研究（S）「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」（研究分担者、平成 26～30 年度、26 年度 150 千円）を獲得した。三ツ松誠講師は若手研究（B）「国学者長野義言の基礎的研究」（研究代表者、平成 26～27 年度、26 年度 800 千円）、基盤研究（A）「多極化する世界への文際的歴史像の探求」（研究分担者、平成 25～28 年度、807 千円）を獲得した。ほか特命教員・非常勤研究員も科研費を獲得している。

〈自己評価〉

本年度もさまざまな分野で研究成果を挙げることができた。また、研究プロジェクト「交流プロジェクト」も順調にすすみ、今後論文・史料集・論集などの成果を出す予定である。

（3）国際交流・地域貢献

ア）小城市教育委員会との共催展「小城祇園祭―千葉・鍋島から現代へ―」を開催し、佐賀大学附属図書館『小城鍋島文庫』の研究のほか、センターにおける研究成果を市民に公開した。

イ）上記共催展に伴い講演会を 2 回開催した。

ウ）佐賀県との共催古文書講座を開催した。

エ）佐賀市との共催公開講座を開催した。

オ）「佐賀県歴史データベース」により山本家文書など佐賀県関係古文書のデータを公開した。

カ）公開講座「佐賀学のススメ」を 6 回企画・開催した。

キ）みやき町の公開講座に協力し、センターより講師を派遣した。

ク）ウェブサイトを公開し、センター事業の紹介や研究成果の発表を行った。

ケ）産学官連携事業「地域の歴史文化調査研究協力事業」のもと、県内自治体や民間団体との歴史文化面における交流・協力をすすめた。

コ）中国の研究者との国際シンポジウムを後援した。

〈自己評価〉

展示・講演会・公開講座の開催による研究成果の市民・地域社会への還元など、本年度も大きな成果をあげることができた。また国際交流については、国際シンポジウムを後援し、中国など海外研究者との交流をすすめた。

（4）組織運営

ア）平成 28 年 3 月現在専任教員 2 名、併任教員 4 名、特命教員 11 名、教務補佐員 1 名、事務補佐員 1 名、非常勤研究員 1 名を配置し、センター長を中心とした円滑な組織運営・研究活動に努めている。また、文化教育学部や全学教育機構、附属図書館等、他部局との連携も進めている。

イ）各学部から選任された委員、附属図書館長・総合情報基盤センター長など本センターの業務に関わる部局の部局長など学長が必要と認めた委員、本センター長・副センター長・専任教員・部門長により構成する運営委員会（学部の教授会に相当）を3回開催し、センター運営に関わる事案の審議を行った。

ウ）センター専任・併任教員による会議を 2 ヶ月に 1 度開催し、センターの運営について検討した。

エ）所蔵図書・資料の増加による菊楠シュライバー館の狭隘化、および火災から貴重資料を守るため、理工学部 3 号館に研究室を借用し、書庫・作業・会議スペースとして活用している。

〈自己評価〉

組織運営はこれまで同様円滑にすすめることができた。しかし菊楠シュライバー館の狭隘化や火災対応の未整備が今後の課題である。

4. 事業一覧　　個人の肩書はすべて当時のもの

A）展示

①特別展

○主催・共催

佐賀大学・小城市交流協定特別展プレイバック企画「小城鍋島文庫に見る 小城鍋島藩と島原の乱」(センター主催、5 月 13 日～31 日、於　佐賀大学美術館・菊楠シュライバー館)

「小城祇園祭―千葉・鍋島から現代へ―」（小城市教育委員会共催、10月31日～12月13日、於　小城市立歴史資料館）

②センター展示室（菊楠シュライバー館1F）におけるミニ展示

○常設展

「写真にみる旧制佐賀高校」

○特別展

「近世の医学と佐賀」

B）講演会

○特別展「小城祇園祭―千葉・鍋島から現代へ―」記念講演会（小城市教育委員会主催、センター協力、10 月 31 日、11 月 28 日、於　小城市立歴史資料館）

三ツ松誠（センター専任講師）「祇園社から須賀神社へ―小城の祇園信仰―」

伊藤昭弘（センター専任准教授・副センター長）「祇園祭と小城藩・佐賀藩」

C）シンポジウム

○祝　世界遺産登録　記念フォーラム「明治日本の産業革命は佐賀から生まれた!」(佐賀大学地域環境コンテンツデザイン研究所・NPOまちづくり研究所共催、8 月 9 日、於　佐賀大学教養教育)

長野　暹(佐賀大学名誉教授)「明治日本の産業革命は、佐賀から生まれた―世界遺産三重津海軍所の顕彰とともに―」

富田紘次(鍋島報效会学芸員)「鍋島直正公の「ひとづくり」」

河本信雄(東芝科学館前副館長)「佐賀藩で近代技術のエンジニアとなった東芝の創始者　田中久重」

信太克規(佐賀大学名誉教授)「日本初の工学博士、電気学会の創始者　志田林太郎」

堀　勇治(佐賀大学元客員研究員)「日本最初の女性理学士で 2 番目の理学博士　黒田チカ」

原田紀代(NPOまちづくり研究所)「佐賀の世界遺産が認定されるまで」

三原宏樹(NPOまちづくり研究所)「世界遺産、我が国の産業遺産を活かしたこれからのまちづくり」

○第7回地域学シンポジウム「薬種商野中家(ウサイエン)からみる 江戸時代の佐賀 「野中家資料」の可能性を探る」(センター主催、9月27日、於　佐賀大学教養教育)

井上敏幸(佐賀大学名誉教授)「草場珮川と第七代野中允卿」

入口敦志(国文学研究資料館准教授)「古活字版『延寿撮要』の表記意識」

青木歳幸(センター特命教授)「野中家にみる解剖図」

野中源一郎(ウサイエン製薬株式会社代表取締役社長)「浅田宗伯による天璋院篤姫診療自筆記録」

三ツ松誠(センター専任講師)「小車社―幕末佐賀の和歌サークル―」

伊藤昭弘(センター専任准教授・副センター長)「幕末維新期野中家の経営」

○第8回地域学シンポジウム「幕末の軍事改革と佐賀藩」(センター主催、平成28年3月13日、於教養教育)

保谷　徹(東京大学史料編纂所教授)「幕末軍制改革の世界史的位置」

吉岡誠也(中央大学大学院文学研究科博士後期課程)「幕末の長崎警備と佐賀藩」

伊藤昭弘(センター専任准教授・副センター長)「幕末佐賀藩の小銃調達―「拝領買」を中心に―」

D)公開講座など

○佐賀大学公開講座(センター企画)「佐賀学のススメ」(平成 27 年 9 月～28 年 2 月、全 6 回、於佐賀大学附属図書館ほか)

○佐賀大学公開講座「幕末の歴史から見える「佐賀の底力」5」(佐賀市共催、平成 27 年 10 月～28 年 2 月、全 5 回、於　佐賀大学教養教育ほか)

○佐賀大学公開講座(佐賀市立図書館共催)「私が教えたい佐賀の歴史と文化　100 分集中講義」(平成 27 年 11 月～28 年 2 月、全 3 回、於　佐賀市立図書館)

○古文書講座応用編(地域学歴史文化研究センター・佐賀県立図書館共催、平成 27 年 5 月～28 年 2 月、全 10 回、於　佐賀県立図書館)

E)調査

○佐賀市・野中家文書(薬種商、約 1 万点)

○佐賀市・深江家文書(佐賀藩士、約 500 点)

○伊万里市・山本家文書(酒造業、佐賀県県議など、約 1 万 5 千点)

F)刊行物

○伊藤昭弘編『小城祇園祭―千葉・鍋島から現代へ―』

○センター編『薬種商野中家(ウサイエン)からみる 江戸時代の佐賀―第 7 回 地域学シンポジウムの記録―』

○中尾友香梨編『佐賀藩第三代藩主 鍋島綱茂の文芸―『観頤荘記』を読む―』

○井上敏幸・伊香賀隆・高橋研一編『肥前鹿島円福山普明禅寺誌』
○『佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要』第 10 号
○佐賀近代史研究会編『佐賀近代史年表　大正編　大正 4 年 1 月～大正 4 年 12 月』

G）研究プロジェクトなど
○佐賀大学学内研究プロジェクト
「地域間交流分析に基づく佐賀地域の歴史文化研究―地域学の発展に向けて―」（代表者伊藤昭弘、平成 26～28 年）
○産学官連携事業
「地域の歴史文化調査研究協力事業」（代表伊藤昭弘（専任准教授）、佐賀県・鹿島市・小城市などと連携）

H）外部資金
○科学研究費補助金（金額は直接経費のみ）
伊藤昭弘　基盤研究（S）「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」（研究分担者、平成 26～30 年度、27 年度 150 千円）
三ツ松　誠　若手研究（B）「国学者長野義言の基礎的研究」（研究代表者、平成 26～27 年度、27 年度 700 千円）
三ツ松　誠　基盤研究（A）「多極化する世界への文際的歴史像の探求」（研究分担者、平成 25～28 年度、27 年度 807 千円）
青木　歳幸　基盤研究（C）「九州地域の種痘伝播と地域医療の近代化に関する基礎的研究」（研究代表者、平成 27～29 年度、27 年度 1,200 千円）
青木　歳幸　基盤研究（C）「小石家書簡にみる江戸期医学と知識人ネットワークの基礎的研究」（研究分担者、平成 26～28 年度、27 年度 140 千円）
伊香賀　隆　基盤研究（C）「江戸期における『易学啓蒙』研究－安東省菴『啓蒙難解』を中心に－」（平成 26～28 年度、27 年度 500 千円）

I）教育関係
○授業担当（専任教員）
・伊藤　昭弘専任准教授
◇教養教育
「佐賀の歴史と文化1」
◇文化教育学部
「西日本地域史論」
◇教育学研究科
「地域史研究特論」

◇e・ラーニング

「チャレンジ佐賀学」

・三ツ松　誠専任講師

◇教養教育

「佐賀の歴史と文化Ⅲ」

佐賀大学地域学歴史文化研究センター 27 年度事業に関する意見

所属等　久留米大学文学部准教授

氏名　　吉田　洋一

佐賀大学地域学歴史文化研究センターの 27 年度の事業について、以下の通り見解・意見を述べる。

１）教育活動

センターは専任教員が学内で授業を担当し、公開講座・古文書講座・講演会を開催するなど精力的に教育活動をすすめている。今後はさらに地域の要望をとりいれた活動をすすめてほしい。

２）研究活動

専任教員を中心に着実に研究成果を挙げており、学会および地域社会に研究成果を発信し、評価を得ている。

３）国際交流・地域貢献

地域貢献は展示・出版・講座・講演会など多様な成果を挙げており、高く評価できる。国際交流については、地域の特性を生かした国際的研究の進展を希望する。

４）組織運営

菊楠シュライバー館外に書庫を確保するなどの進展は確認できるが、今後よりスペースを確保するための外部資金獲得などが求められる。